

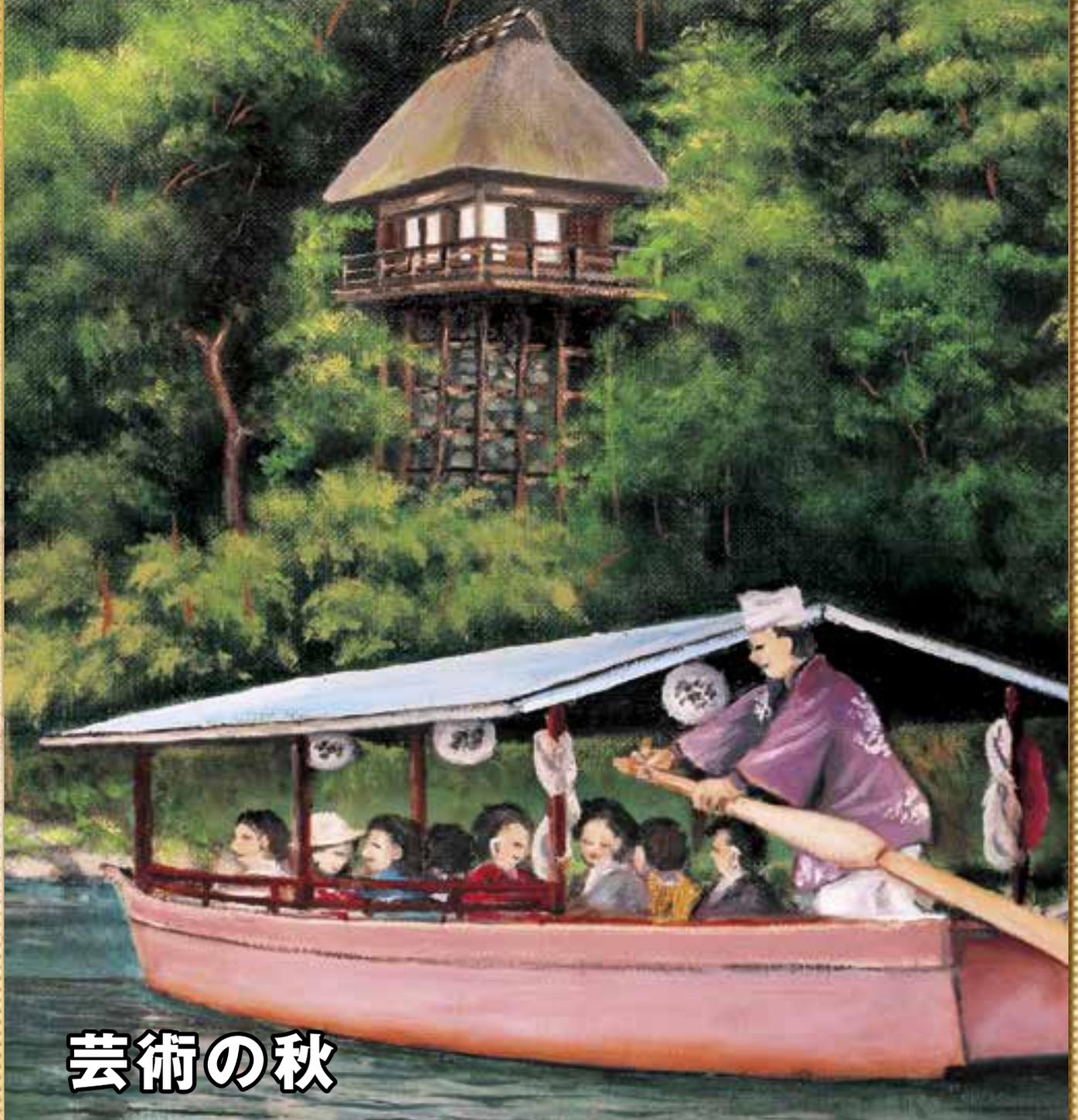
広報

おやすみ

2017

10

No.153



芸術の秋

がんばる大洲っ子



練習は嘘をつかない

新谷小学校6年
しま いえ ぶん た さん
嶋 家 文 太 さん

僕は、新谷サッカースポーツ少年団でサッカーをしています。4年生の3学期から始めて、今ではディフェンダーとして試合に出場しています。練習は週4日あり、大変だと思ふときもありますが、「練習は嘘をつかない」という言葉を胸に、練習に取り組んでいます。将来の夢は、もちろんサッカー選手です。大好きなサッカーをこれからも続けていきたいと思っています。

僕の通っている新谷小学校は、校舎が新しくなり、とてもきれいなので、快適に過ごしています。玄関には、松本零士さんにより描かれた大きな壁画があり、僕のお気に入りです。

6年生になり、学校の代表として活動する機会が多くなりました。低学年と一緒に活動することもあるので、みんなのお手本になれるよう、しっかりと生活態度を身につけたいです。

10月の納税など 納期限は10月31日(火)です。

税 別	10月	11月	12月	1月
市 県 民 税	3 期		4 期	
固 定 資 産 税		4 期		5 期
軽 自 動 車 税				
国 民 健 康 保 険 税	4 期	5 期	6 期	7 期

市税などの納付は、便利で安心な「口座振替」を。

現在の大洲

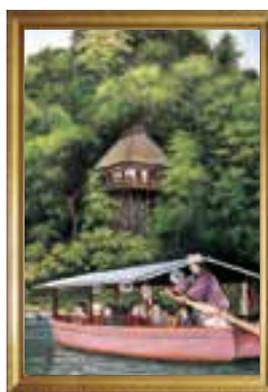
	人の動き(先月比)	交通事故(昨年同期)
人口	44,410人 (19)	件数 71件(109件)
男	21,225人 (3)	死者 2人(2人)
女	23,204人 (16)	負傷者 90人(141人)
世帯数	20,141世帯(20)	

(2017年8月末現在)

CONTENTS 目次

2 ページ	がんばる大洲っ子・今月の表紙
3 ページ～	(特集1)異文化との出会い、そして成長
8 ページ～	(特集2)大洲市から「小説家の卵」育成
10ページ～	おおずニュース
13ページ～	シリーズ
15ページ～	おしらせピックアップ
22ページ～	情報ひろば
24ページ	集まれO級若モン
25ページ～	図書館・保健センター・各種相談ガイド
28ページ	がんばるひと (国立大洲青少年交流の家)

今月の表紙



長浜地区の菊地俊正としまささんが描かれた油絵です。この絵は、広報おおず5月号の表紙の写真素材を描かれています。8月の肱彩会展に出展した絵を表紙に使用させていただきました。

芸術の秋です。新しいことに関心の目を向けてみるのもいいかもしれません。

(特集1) 異文化との出会い、そして成長

～大洲市中学生海外派遣事業～



写真上段左から 井上さん 今川さん 福本さん 船津先生 小泉さん 服部さん 小泉先生
下段左から 米澤さん 足立さん 高橋さん 渡邊さん 上野さん 尾上さん



大洲市では、市内の中学生を対象に、「大洲市中学生海外派遣事業」を毎年実施しています。

この事業は、これからの大洲市を担う中学生を海外に派遣し、異国の文化に触れることで、歴史、経済、生活習慣および国民性の違いを肌で感じ、国際的な感覚と視野を養い、国際化時代にふさわしい人材を育成することを目的としています。今年度は市内8校、11人の中学生が7月31日(月)から8月14日(月)までの15日間、オーストラリアのケアンズに滞在しました。

現地では、ホストファミリーの家庭でホームステイをしながら語学学校に通い英語の授業を受け、自然や多くの人と触れ合い、さまざまな交流を行いました。

今月号では、参加したみなさんの感想文を紹介します。

今回の海外派遣は、全てが初めての経験でした。見慣れない景色や、聞き慣れない言葉に戸惑うこともありましたが、先生や一緒に海外派遣に参加した友達と助け合い、乗り越えることができました。



大洲南中学校
服部 紗良さん

オーストラリアでは、現地の人たちと積極的にコミュニケーションをとることを心掛けましたが、言いたいことがうまく伝えられず、もどかしさを感じることもありました。そんな時とても役に立ったのが、ジェスチャーです。日本ではあまり使わないジェスチャーですが、日本語の通じないところで生活してみると、ジェスチャーも世界中の人たちとコミュニケーションをとることのできる手段の一つであるということに改めて気づかされました。

また、英語を使うことが生活の一部になることは、学校で学習する英語力よりも、人と関わりあう力が必要になると感じました。このように、オーストラリアでは、日本で生活しているときには気づかない、新しい発見がたくさんありました。

これからも、感謝の気持ちを忘れず、海外派遣で学んだことを生かし、将来海外でも活躍できる人間になりたいと思います。

初めての海外は驚くことばかりでした。私は、英語力には自信があるほうでしたが、現地に行き小学生に話し掛けてみても聞き取ってもらえませんでした。できるはずの英語が伝わらず、どうしたら伝わるのか考える毎日でした。



大洲南中学校
米澤 菜摘さん

伝わらなかった理由は、発音だと思います。私たちが話している言葉は現地の人にとっては聞こえなかったり、発音は合っても別の単語に間違えられたりしました。また、オーストラリアならではの発音もあり、慣れるのに苦労しました。現地で行われた授業での発音練習は、とても大変でしたが、今では発音に少しだけ自信が持てるようになりました。

オーストラリアで生活した2週間はとても充実したものでした。他の中学生とサポートし合うことから学び、お互いに間違いを注意することで、思いやりや積極性を磨くことができたと思います。日本とは違う文化や考えなどを肌で感じ、体験できたことを本当にうれしく思います。これからの学校生活に、この経験を生かしていきたいです。また、この機会を与えてくださった全ての人へ感謝の気持ちをもって生活していきたいです。ありがとうございました。

今回参加した大洲市中学生海外派遣事業では、とてもすばらしい体験をすることができました。



大洲北中学校
井上 永唯さん

僕は、当初不安でいっばいで無事この事業を終えることができるのだろうかという思いでした。しかし、オーストラリアで、日本とは全く違う文化、言語にふれると、そんな思いは消えて、いつの間にか好奇心へと変わっていました。

現地の人たちはとても温かく、右も左も分からない僕に、優しく分かるまで説明してくれました。そのおかげで、ホームステイではファミリーとの生活を楽しむことができました。

また、学校では、日本とは全く違う学習ばかりで驚きました。特にパソコン学習への力の入れ方はすごかったです。小学6年生のバディとは、あっという間に友達になりました。

ぼくは、今回の事業で、すごく成長しました。現地の先生から、「自信をもって挑戦することがとても大切です」と教わりました。この言葉を忘れずにこれからもっとがんばります。

オーストラリアでは本当に充実した2週間を過ごすことができました。行く前、私にはオーストラリアに行くという喜びと共に、英語だけで2週間生活していけるだろうかという不安もありました。しかし、オーストラリアの人たちはとてもフレンドリーで気軽に声をかけてきてくれ、私の不安もあっという間に消えました。



大洲北中学校
上野 莉子さん

私が一番楽しかったのは学校です。現地の子どもたちとの交流を通してたくさんのことを学びました。休み時間には、外でバスケットやバレー、オーストラリア風の鬼ごっこをしたりして楽しく過ごしました。

また、私のスクールバディはとても優しい子で、今もメールで連絡を取り合うほど仲良くなりました。改めて、オーストラリアの素晴らしいところを知るとともに日本の良さを感じることもできました。

このような貴重な経験ができたのもたくさんの人の支えがあってこそだと思います。バディ、ホストファミリー、一緒に行った仲間、先生、家族に感謝したいです。

最高に有意義な時間を過ごすことができました。この一言に尽きます。現地の子どもたち、一緒に行った仲間、ホストファミリー、全てが最高でした。たくさんの方の助けを借り、たくさんの方を知りました。



平野中学校
福本 凌麻さん

思い出に残ったことのひとつに、現地の子どもたちと過ごした学校生活があります。学校では楽しく勉強したり、外でスポーツをしたりしました。いろいろなことに驚かされる毎日でした。オーストラリアは南半球なので今の季節は冬ですが、赤道に近いので暑くなることは覚悟していました。しかし、紫外線が突き刺さるような痛い暑さは初めての経験でした。そんな中で、外でバスケットボールやサッカーをしている現地の子どもたちの運動量もすごくて圧倒されました。

今回のオーストラリア研修で更に英語が好きになり、いろいろな人と会話をすることが楽しく、将来の夢のため、さらに勉強に励んでいきたいと思いました。

この機会を与えていただいた大洲市をはじめ、さまざまな人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。また、家族にも感謝しています。

私のホストファミリーには、5歳と11歳の2人の男の子がいて、その子たちとたくさん遊びました。両親は料理上手で、出てくる夕食がいつも楽しみでした。また、私に英語の発音やオーストラリアの文化について教えてくれました。こんな素敵な家庭に滞在することができた私は幸せ者です。



大洲北中学校
尾上 晃子さん

私がこの2週間の滞在で一番感じたことは、「英語は楽しい」ということです。行く前、私は英語があまり得意ではないので、不安でいっぱいでした。でも積極的に話しかけて会話ができると、どんどん楽しいと思えるようになりました。異なる文化を持つ人たちとつながっていくことは、とても素晴らしかったです。もちろん、聞き返すことや全く意味が分からないこともたくさんありました。また、自分の気持ちをうまく伝えられないこともありました。これからもっと英語を勉強したいと思いました。そして、いつかオーストラリアでお世話になった人たちに会いに行きたいです。

出発の前日、僕は、不安と喜びでなかなか寝付けませんでした。オーストラリアに到着すると、まず、現地の人と話すと速さに驚きました。話していることが分からなくて、買い物をするだけで悪戦苦闘しました。



新潟中学校
今川 雅仁さん

ホストファミリーの人たちは、みんな明るく親切で、休日には音楽ライブやプールに連れて行ってもらいました。家では全て英語で、苦労しましたが、一番の思い出となりました。

現地の学校では、日本では習わないことをたくさん教えてもらいました。発音は特に難しかったのですが、日ごとにうまく発音できるようになりました。不安だった子どもたちとの交流も、すぐに打ち解けて仲良くなれました。英語を聞き取るのは大変でしたが、有意義な時間を過ごすことができました。

この研修は、楽しいことばかりではなく、「僕の英語力はまだまだ」だと実感した研修でもありました。この反省をバネに、これからも自分の英語力を高めていきたいです。

オーストラリアへ行って、いろいろな経験ができました。一番楽しかったことは、ホストファミリーとディナーを食べながらいろいろな話をしたこと。ホストマザーが分かりやすく話しかけてくれたので、ほとんどの英語は聞き取れました。



肱東中学校
足立 奈緒さん

「あなたの家族を紹介して」や「あなたの友達について教えて」など、たくさん話しかけてくれたので、私も自分の知っている表現を使って積極的に楽しく会話することができました。

しかし、どうしても意味が分からない言葉があったり、自分の発音がうまくいかなくて通じなかったりすることもありました。発音はとても難しく、気を付けて発音しているつもりでも、正しい発音の仕方に何度も直してもらいました。そのおかげでどうやって発音したらいいのかを学べたので、ホストファミリーにはとても感謝しています。

いつかまたオーストラリアに行って、ホストファミリーに会って話をしたいと思います。

オーストラリアでたくさんの思い出ができました。最初はホームステイや2週間という長い海外での生活に不安を感じていましたが、行ってみるとそんな不安もすぐに消え、とても充実した2週間になりました。



長浜中学校
渡邊 理子さん

オーストラリアで学習した発音にはとても苦労しました。細かくチェックされ、指導をしていただきました。また、現地の小学校の子どもたちがたくさん話しかけてくれ、交流もでき、バスケットやティギという鬼ごっこをしたりして楽しく過ごすことができました。ホームステイも慣れると家族と過ごすことが楽しくて、週末にファミリーと行ったグレートバリアリーフでのシュノーケリングは、このオーストラリアでの一番の思い出です。

この経験で自分の英語力不足を実感しました。さらに英語力を高めていきたいと思います。そして、これからいろいろなことにチャレンジして、人として成長していきたいと思います。最後に、今回の海外派遣に関わっていただいたたくさんの人に感謝します。本当にありがとうございました。

今回の海外派遣を通して、たくさんのことを学び、かけがえのない体験をすることができました。私は現地の人に話しかけられても、英語が分からずあまり会話をすることができませんでした。もっと勉強して英語を話せるようになりたいと思いました。



大洲東中学校
小泉 萌夏さん

ホームステイでは、野生のロックワラビーと触れ合ったり、ケアンズの夜景を見たりといろいろな場所に連れて行ってもらいました。また、日本では食べたことのないカンガルーや羊のステーキを食べさせてもらいました。ケアンズを好きになってもらいたいというファミリーの思いや優しさが伝わる毎日でした。

現地の学校では、すべて英語で生活しながら授業を受けました。英語の発音が難しく、聞き取れなかったところもありましたが、生の英語が聞き取れて理解できたときや、会話をすることができたときはとてもうれしかったです。

このような機会を与えてくださったすべての人たちに感謝しています。学んだことを忘れず、今後の生活に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。



海外派遣中の2週間は、とても有意義なものになりました。行く前は、初めて会う仲間や先生と慣れない環境で生活することに不安を感じていました。しかし、2週間たった今では、そんな感情が嘘のように思えます。



河辺中学校
高橋 茉里さん

中でも私が一番心に残ったのは、Worre State Schoolで

の学習です。発音の仕方を本格的に教えてもらいました。自分では正しく発音していると思っていても、本場では違うらしく何度もやり直しをしました。先生に合格をもらえたときはとてもうれしかったです。

夜や休日には、ホストファミリーと生活を共にし、日がたつにつれてたくさん話せるようになりました。夢だったコアラを抱くこともできてよかったです。

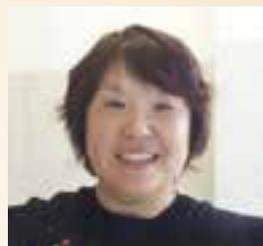
思い返せば、2週間は本当にあっという間だったと感じます。たくさんの人たちと出会い、貴重な体験をすることができました。このような体験をさせていただいた多くの関係者のみなさん、家族、友達、先生に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

オーストラリアでの日々は、生徒たちにとって初めての出会いと驚き・感動の連続でした。しかし、そこにはさまざまな葛藤もありました。たくさんの食事を前に満腹だけど出された食事は残さず食べる日本人の生真面目さ。ファミリーの就寝時間の早さに驚き、日本から持ってきた宿題をした夜。言葉が伝わらない、相手の好意に応えられないもどかしさや悔しさ。文化の違いからくる気疲れや望郷への思い…。引率者として少し心配もしましたが、そんな生徒の不安を笑顔にかえてくれたのは、オーストラリアで出会った人々の温かさと共に過ごした仲間でした。そして、何よりも自分から動こうとする前向きな姿勢でした。

言葉だけではなく、身振りや手振りを交えながら話すことで通じ合った喜びが、自信や達成感となり、次へのステップとなりました。生徒たちがどんどんと変わっていく姿に触れ、子どもたちの柔軟な適応力、成長の様子には驚くばかりでした。

日本でもオーストラリアでも、世界のどこにいても変わらない大切なもの、それは「人とのつながり」だと改めて感じました。心を開くだけでなく、英語という言葉(道具)を使うことで、よりスムーズにコミュニケーションを図ることができるのです。

今回の派遣生も、将来の大洲市を担うリーダーとして、この貴重な経験を積極的に発信してくれると確信し、期待をしています。この海外派遣事業でお世話になった人たちに心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。



引率 長浜中学校
教諭 小泉 優子

私たちの研修は、ケアンズの美しい日の出を見ることからスタートしました。受け入れ校の州立ウォーリー小学校は、さまざまな人種の子もたちが通う学校でした。日本文化の授業も定期的に行われているようで、多くの子どもたちが「コニチハ」の声をかけてくれます。

思い出に残る光景が2つあります。1つは、6年生の授業に参加したときのこと。約20人の小学生が自分のルーツを次々に発表していきます。ヨーロッパ、アジア、北南米…子どもたちのルーツは20カ国以上にのぼりました。日本では考えられないことです。オーストラリアの活力は、この多様性と柔軟性が生み出していると感じました。最後に、みんなで名前やメッセージを書いてしおりを作りました。英語と日本語の文字が入り交じった世界にただ一つのしおりは、子どもたち全員の大切な宝物になりました。

もう1つの光景は、お別れ会でのこと。派遣生が、事前に練習した「よさこい」を披露しました。次に、現地の小学生が派遣生の間に入り、見よう見まねで踊りました。笑顔と笑顔、日本とオーストラリアの子どもが入り混じり、お別れ会の会場は最高潮に達しました。

中学生という感性豊かなこの時期に、五感を通して学んだことは、派遣生にとって大変大きな財産となったことでしょう。必ずや大洲の将来、日本の未来に貢献してくれるものと信じています。

関わっていただいた多くの方々に、心から感謝申し上げます。



団長 大洲東中学校
校長 船津 治



今回、海外派遣に参加したみなさんは、たくさんの不安を抱えて出発したと思います。それでも、15日間の海外生活を終え、大洲へと帰ってきた姿は、とてもたくましく見えました。みなさんの感想文を読むと、とても有意義な海外派遣であったことが分かります。

今回の体験を通して、派遣生のみなさんが世界に羽ばたく人材となることを願っています。

今回の海外派遣の様子は、大洲東中学校のホームページにアップされています。

大洲東中学校(<http://ohzuhigashi-j.esnet.ed.jp/cms/>)



H29大洲東中日記カテゴリ／オーストラリア日記

(特集2)

大洲市から「小説家の卵」

子どもとともに 本をひらこう 未来のページ (大洲市子ども読書推進計画キャッチフレーズ)

【第21回大洲市読書活動研究集会・大洲市子ども読書活動推進講演会】

中央左：松山市出身の[※]ショートショート作家

田丸 雅 智 先生

※ショートショートとは小説
の中でも特に短い作品



多数の著名人が田丸先生の作品に魅了されていて、お笑い芸人ピース又吉さんは田丸先生の作品である「海酒」を短編映画化している。

8月22日(火)、大洲市総合福祉センターにて第21回大洲市読書活動研究集会・大洲市子ども読書活動推進講演会が開催されました。参加した市内の小中学生などは、何の準備もなく、小説家を目指して参加したわけでもないと思います。田丸先生は、「小説家にならなくていい。短い小説を考えて作るだけで、発想力、論理的思考力の強化につながり、それによって、勉強やスポーツに大いに役立つ。私は、小学校のころ、本が嫌いでしたが星新一^{しんいち}さんの本がきっかけで今では分厚い本も読めるようになった」と述べられました。

緊張していた児童生徒は、自然と笑顔になり、帰るころには、作家のような顔になっていました。

市内小中高生61人が集まった「超ショートショート講座」では、東京大学工学部出身の田丸先生が考案した田丸式メソッドにより、わずか1時間で小説家の卵へと変身しました。その成果の一部をご紹介します。

「題：とうめいボールペン」

喜多小学校 5年 亀岡 ^{まゆ}真由

ある日、家で宿題をしていた。するとノートに勝手に字が書かれていく。「わっ幽霊だ！」思わずさげんでしまった。気がつけば、いたずら好きの兄が現れてニヤニヤ笑っている。まったく訳が分からない。兄に聞くと、「秘密はこれさ。」と、ボールペンを見せてくれた。「このボールペンは、書き始めると、書いている人が透明になるんだ。」



と一言。兄は、これを使ってテストのときカンニングをしたそう。まったくずるがしこいやつめ。

「題：不思議な扇風機」

白滝小学校 4年 谷淵 ^{みゆ}美優

とても不思議な扇風機がアイスクリーム屋にあった。驚いて立ちつくしていると店員さんが、私が持っているアイスを見ながらこう言った。「これは、アイスクリーム扇風機と言って、扇風機の形をしたアイスだよ。とても冷たい風が出るよ。それに食べることもできるよ。あなたが手に持っているアイスと同じでね。」と言うのだ。それを聞いた私は、恐る恐る舐めてみると、自分が持っているアイスと同じ味がするのだ。美味しい。そこで、店員さんが言った。「どうですか。この扇風機アイス買いませんか。」私は、「明日までに考えときます。」と言って、次の日、アイス



クリーム屋さんへ行った。「何か注意することはありますか。」と聞いたところ、店員さんはしどろもどろになりこう言った「だっ、だっ、だいじょうぶですよ。」私は、怪しいと思って買わなかったが、帰り道、少し気になっていた。注意することってなんだろう「溶けてしまうこと」なのではないのかと。家に帰ると扇風機があった。もしかしてあの扇風機ではないのかな…。舐めると…。

みんなで盛り上げよう！がんばれ愛媛県！

えがお 愛顔 つなぐ えひめ国体・えひめ大会



国体カヌー選手が漕ぎ手を務めました。

採火棒から炬火トーチに点火され、大洲市の火が誕生。肱川を下るカヌー隊により、炬火リレーがスタートしました。



日本ボーイスカウト愛媛県連盟 大洲第一団のみなさん

採火式は柚木の如法寺河原で行われ、ボーイスカウトのみなさんが、頼もしい手つきで起こした火を、採火棒へと移していききました。

大洲市の火誕生

8月20日(日)、大洲市炬火イベントを開催し、約1カ月後に迫った国体開幕への機運を盛り上げました。

この炬火の名称は、肱川町在住の今宮和枝さんの作品、「走れ今 水郷大洲 希望の火」に決定しました。この炬火名は、応募のあった239作品から最優



点火の様子

点火式会場では、ステージ上に到着した最終走者のトーチから、清水市長のトーチへと炬火が引き継がれ、二人の手で炬火受け皿へ点火しました。



リレー隊は公募で選ばれた市内小中学生で構成

炬火は、大洲城下まで、肱川を1.7キロ下りました。その後、陸上リレー隊へと受け渡され、肱川緑地公園まで、5区間3キロをリレーしました。

開催

第17回全国障害者スポーツ大会

えがお 愛顔 つなぐ えひめ大会

大洲市では10月28日(土)、29日(日)に、大洲市総合体育館において、知的障がいのある選手が出場する、バスケットボール競技を開催します。

ぜひ会場へ足をお運びいただき、声援をよろしく願います。

競技日程

10月28日(土)	1回戦	午前11時～
	交流戦	午後4時～
10月29日(日)	準決勝	午前9時～
	交流戦	午後0時20分～
	3位決定戦	午後2時～
	決勝	午後3時40分～



会場では、ドリンクや日替わりのふるまい料理を無料で提供。手作りクッキーもふるまわれます。

28日(土) 大洲コロッケ / 29日(日) いもたき
また、さまざまな売店が出店しますのでご利用ください。

競技会場

大洲市総合体育館

【臨時駐車場】 喜多小学校



大洲市開催競技チラシの引換券を持参すると、毎日先着50人に、大洲城城山公園本丸のケヤキを使った「大会記念」コースターをプレゼントします。



【問い合わせ先】 愛顔つなぐえひめ国体・えひめ大会大洲市実行委員会事務局
えひめ国体推進課 ☎57-9995 ホームページ：http://www.ehimekokutai-ozu.jp/